

(限 内 部)

# 海軍公報

(部内限) 第千四百四十二號

昭和六年十二月二日(月)  
海軍大臣官房

## ○ 辭 令

上海駐在ヲ命ス  
海軍主計特務中尉 柳田 室作

上海駐在ヲ免ス(以上ニハ海軍省)  
中村 靜雄

漢口駐在ヲ命ス  
海軍少佐 益田 康彦

海軍機關大尉 桐野 義隆  
派遣勤務員トシテ海軍省軍務局勤務ヲ命ス(以上ニハ同)

海軍公報(部内限) 第千四百四十二號 昭和六年十一月二日

四八五

2012

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第千四百四十三號

昭和六年十一月四日(水)  
海軍大臣官房

○ 辭 令

海軍軍令部出仕海軍中佐 草鹿龍之介  
第一班勤務ヲ命ス  
海軍軍令部參謀海軍大尉 田口 太郎  
第一班第一課勤務ヲ命ス(以上正副海軍軍令部)

海軍公報(部内限) 第千四百四十三號 昭和六年十一月四日

四八七

2013

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千四百四十四號

海軍大臣官房

昭和六年十一月六日(金)

○令達

官房機密第一〇六六號

左記ノ者當分ノ間海軍購買廳ニ於ケル指名競争契約ノ  
入札又ハ隨意契約ノ見積加入ヲ停止ス

昭和六年十一月六日

海軍大臣

記

一、戸井亀太郎 廣島市大須町一六四

海軍公報(部内限) 第千四百四十四號

昭和六年十一月六日

四八九

2014

( 部 内 限 )

海軍公報

(部内限) 第千四百四十五號

昭和六年十一月七日(土)

海軍大臣官房

○ 通 牒

軍需需第二二三號

昭和六年十一月六日

海軍省經理局長  
海軍省軍需局長

關係各所轄長殿

艦營需品供給豫算總括告達ニ關スル整  
理手續中改正ノ件通牒

昭和四年四月軍需需第八九號本手續中軍需部長ヨリ軍  
需局長ヘノ通知ハ爾今廢止致候

(希)

○ 辭 令

海軍少將 豊田貞次郎

思想調査委員會委員ヲ命ス

海軍懲罰令改正委員會委員ヲ命ス

軍港要港勢力標準調査委員會委員ヲ命ス

海軍軍事普及委員會委員長ヲ命ス  
陸海軍軍需工業動員協定委員會副委員長ヲ命ス  
燃料政策調査委員會委員ヲ命ス  
海軍工作應會計制度調査委員會委員ヲ命ス(対前海軍  
省)

(各通)

海軍中佐 田 結 穰  
海軍主計中佐 西野 定市  
中華民國へ出張ヲ命ス(対前同)

○ 雜 款

○第八驅逐隊(天霧、朝霧、狹霧、夕霧)行動豫定  
地名 着 發

横須賀 十一月八日

佐世保 十一月十三日

鹿兒島 十一月十九日

横須賀 十一月二十一日

○郵便物發送先

海軍公報(部内限) 第千四百四十五號

昭和六年十一月七日

四九一

2015

第八驅逐隊(天霧、朝霧、狭霧、夕霧)宛  
 十一月十二日迄ニ到達見込ノモノハ  
 同 十八日迄ニ 同 佐世保  
 其ノ後ハ 横須賀

○正誤

本月二日辭令欄中「柳田宝作」ハ「柳田宝作」ノ誤

2016

( 部 内 限 )

海軍公報

(部内限) 第千四百四十六號

昭和六年十一月九日(月)

海軍大臣官房

○ 雜 款

○第二十四潜水隊(呂六四、呂六三、呂六八)行動豫定

地名 着

發

吳 高 松 十一月九日

十一月九日

高 松 十一月九日

十一月九日

高 松 十一月九日

十一月九日

高 松 十一月九日

十一月九日

○郵便物發送先

第二十四潜水隊(呂六四、呂六三、呂六八)宛

十一月十日迄ニ到達見込ノモノハ 高 松

同 十一月一日迄ニ 同

其ノ後ハ 吳 高 松

海軍公報(部内限) 第千四百四十六號

昭和六年十一月九日

四九三

2017

( 限 内 部 )

海軍公報

(部内限) 第千四百四十七號

海軍大臣官房

昭和六年十一月十日(火)

○令達

官房機密第八四四號ノ二

本年九月官房機密第八四四號ハ之ヲ廢止ス

昭和六年十一月十日

海軍大臣

(参照)

本年九月官房機密第八四四號ハ三田土ゴム製造  
株式会社當分ノ間海軍購買廳ニ於ケル指名競争  
契約ノ入札又ハ隨意契約ノ見積加入停止ノ件ナ  
リ

海軍公報(部内限) 第千四百四十七號

昭和六年十一月十日

四九五

2018

# 海軍公報 (部内限) 第千四百四十八號

昭和六年十一月十一日(水)  
海軍大臣官房

## ○令達

官房第三五三九號

當分ノ間所屬長官ハ第二種煉炭ノ在庫品アル場合ニハ第一種煉炭ノ豫算ヲ燃料經理規程別表記事第十二號品種相互換算係數ニ依リ第二種煉炭ニ換算ノ上之ガ受入ヲ爲サシムルコトヲ得

昭和六年十一月十一日

海軍大臣

## ○通牒

軍需機密燃第一〇七號 昭和十三年海軍省令第一七五號ニ依リ本令ハ然消滅

昭和六年十一月十一日

海軍省軍務局長  
海軍省軍需局長

第一、第二艦隊  
各鎮守府  
各要港部  
參謀長殿

## 煉炭使用ニ關スル件申進

本年度ヨリ海軍燃料廠ニ於ケル生産煉炭ハ海軍煉炭ノミトシ第一種及第二種煉炭ハ在庫限リ之ヲ使用セシメラルルコトト相成候處第一種及第二種煉炭ノ整理並ニ軍港、要港等ニ於ケル在庫量トノ關係上昭和七年度(教育)煉炭豫算ハ在庫量最モ多キ第一種煉炭ヲ以テ告達セラルルコトト内定致居候就テハ煉炭ノ在庫品統一促進ノ爲在庫ノ第二種煉炭ハ成ルベク速ニ整理スルノ要アリト認メラレ候條艦船ノ任務及行動上支障ナキ限リ官房第三五三九號ニ依リ第二種煉炭ヲ使用セシメラルル様可然御取計相成度

追テ海軍煉炭ハ當分ノ間第一種煉炭在庫ナキ場合ノ外ハ使用セシメラレザル方針ニ有之候尙第二種煉炭ノ在庫量ハ佐世保ヲ除キテハ極メテ少量ニ付爲念申添候



(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第千四百四十八號 昭和六年十一月十一日

四九七

2019



(限 内 部)

# 海軍公報

(部内限) 第千四百四十九號

海軍大臣官房

昭和六年十一月十三日(金)

## ○ 雜 款

○第二遣外艦隊へ轉任者ニ關スル件照會  
 本月及來月ノ異動ニ於テ當司令部及球磨へノ轉任者ハ  
 青島へ、第十六驅逐隊へノ轉任者ハ旅順へ孰モ成ルベ  
 ク速ニ赴任センメラルル様御取計ヲ得度  
 (第二遣外艦隊副官)

海軍公報(部内限) 第千四百四十九號

昭和六年十一月十三日

四九九

2020

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第千百五十號

昭和六年十一月十四日(土)  
海軍大臣官房

○ 辭 令

海軍中佐 安住 義一  
派遣勤務員トシテ海軍省教育局勤務ヲ命ス(海軍省)

海軍公報(部内限) 第千百五十號

昭和六年十一月十四日

五〇一

2021

# 海軍公報 (部内限) 第千五百五十一號

昭和六年十一月十六日(月)  
海軍大臣官房

## ○令 達

官房第三五六五號  
艦營需品定額表中數量左ノ通定ム

昭和六年十一月十三日

海軍大臣


航海長主管  
運用品長主管ヨリ供給ヲ受クル備品

品名	數稱	定	數
羽 簾 個	軍艦、特務艦、驅逐艦、掃海艇、潜水艦	各二	
品名	數稱 <td>定</td> <td>數</td>	定	數
航海長主管へ供給スル消耗品			
運用品長主管ヨリ供給ヲ受クル備品			
品名	數稱 <td>定</td> <td>數</td>	定	數
航海長主管へ供給スル備品			
品名	數稱 <td>定</td> <td>數</td>	定	數
航海長主管へ供給スル消耗品			
品名	數稱 <td>定</td> <td>數</td>	定	數
航海長主管へ供給スル備品			

海軍公報(部内限)第千五百五十一號

昭和六年十一月十六日

五〇三

(限 内  部)

海軍公報 (部内限) 第千五百五十二號

○ 辭 令

海軍軍令部出仕海軍少佐 岡田 爲次  
第一班第二課勤務ヲ命ス(附海軍軍令部)

昭和六年十二月十七日(火)  
海軍大臣官房

海軍公報(部内限) 第千五百五十二號 昭和六年十一月十七日

五〇五

2023

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第千五百五十三號

昭和六年十一月十八日(水)  
海軍大臣官房

○令 達

官房機密第一一〇號

昭和六年十一月十八日

海軍大臣

各鎮守府司令長官  
舞鶴要港部司令官

兵器簿ノ件通達

各艦船部隊學校兵器簿砲術長主管之部中左記ノ通改正  
ス

記

區別	類 別	改 正 名 稱	現兵器簿名稱
改正	砲架附屬具 自二十五厘砲 至五厘砲	特四號電球 <sup>三V</sup> 三五A	望遠鏡用 白熱電燈
		右 同 " "	日盛點燈用 白熱電燈
改正	右 同 " "	普通照準器	普通照準器 白熱電燈
		測距儀	測距儀用 白熱電燈
武式二米半	測距儀	特三號電球 <sup>〇一五</sup> 二AV	測距儀用 白熱電燈

○通 牒

海人第二〇九號

昭和六年十一月十七日

海軍省人事局長

關係所轉長殿

士官異動ニ關スル件申進

來十二月一日附發令セラルル矢矧職員ノ異動ハ轉出入  
共同艦所屬軍港歸投後實施セラレ度依命

海軍公報(部内限) 第千五百五十三號 昭和六年十一月十八日

五〇七

2024

(限 内 部)

海軍公報(部内限)附録

昭和六年十一月十九日(木)  
海軍大臣官房

昭和六年九月中ニ於ケル艦船恩給年加算始終期左ノ通

(海軍省人事務局)

艦船名	加算始終期(左)	發地名	行先	任務	加算恩給率	記	事
矢 矧	六 年 九 月 二 三 日	馬 公	厦 門	外國鎮戍	一 月 半 同 上		
對 馬	六 年 九 月 二 六 日	佐 世 保	揚 子 江 流 域	同	同 同 上		
洲 崎	九 月 二 七 日	鹿 川	露 領 才 八	遠 洋 航 海	半 月		
襟 裳	九 月 一 七 日	德 山					
鶴 見	九 月 八 日	德 山					

海軍公報(部内限)附録

2025

刈 萱		芙 蓉		朝 顔		竹	榎、 梨	隠 戸	早 鞆
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
二	一	一	一	三	一	二	二	一	一
四	四	九	八	〇	四	三	五	二	四
同	同	同	同	同	同	馬	馬	吳	德
	順				順	公	公		山
青	安	龍	安	芝	青	福	油	露	
島	東	口	東	采	島	州	頭	領	
同	同	同	同	同	同	同	外	オ	
							國	ハ	
							鎮	遠	
							成	洋	
							一	航	
							月	海	
							半		
							月		
同	同	同	同	同	同	同			
上	上	上	上	上	上	上			

( 部 内 限 )

海軍公報 (部内限) 第千五百五十四號

昭和六年十一月二十日(金)  
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第三六三一號

雜役船ノ所屬及定數別ヲ左ノ通變更ス

昭和六年十一月二十日

海軍大臣

船種	公稱番號	新所屬	舊所屬	定數別	記事
曳船兼 交通船 (三十噸)	第三三號	海軍水雷 學校	橫須賀海 軍港務部	定數	公稱第一三三號代 船須賀海軍需部 還納ノモノ
ランヂ (發動機附)	第四七號	海軍通信 學校	大村海軍 航空隊	定數	公稱第五四二號代 船
カッター (九米)	第六〇三號	霞ヶ浦 海軍航空 隊	同上	臨時 附屬	代船竣工ニ付還 納豫定ノモノ
同 (同)	第六〇三號	同上	同上	臨時 附屬	代船竣工ニ付還 納豫定ノモノ

海軍公報 (部内限) 第千五百五十四號 昭和六年十一月二十日

五〇九



(限 内 部)

# 海軍公報

(部内限) 第千五百五十五號

海軍大臣官房

昭和六年十一月二十二日(土)

## ○令 達

官房第三二三〇號ノ三

昭和六年官房第三二三〇號中二、臨時増派艦船ニ、第十三驅逐隊(若竹、吳竹、早苗、早巖)ヲ追加シ昭和六年十一月十三日ヨリ之ヲ適用ス

昭和六年十一月二十一日

海 軍 大 臣

(参照) 本年官房第三二三〇號ハ昭和六年度艦艇派遣費、中華民國方面臨時艦艇派遣諸費補足ヲ以テ經費ヲ支辨スベキ各部ノ件ナリ

## ○雜 款

○驅逐艦江風、谷風行動豫定

地名 着

新舞鶴 十一月二十五日

發 十二月二十四日  
二十六日

吳

二十七日

○郵便物發送先

驅逐艦江風、谷風宛

十一月二十三日迄ニ到達見込ノモノハ 新舞鶴  
其ノ後ハ 吳

海軍公報(部内限) 第千五百五十五號 昭和六年十一月二十一日

五一

2028

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千五百五十六號

昭和六年十一月二十四日(火)

海軍大臣官房

○ 辭 令

海軍機關大佐 石井 常次郎

思想調査委員會委員ヲ命ス(計官部海軍省)

海軍公報(部内限) 第千五百五十六號

昭和六年十一月二十四日

五二三

2029

( 限 内 部 )

海軍公報 (部内限) 第千五百五十七號

昭和六年十一月二十五日(水)  
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第三六六二號  
海軍工務規則第六十七條及同條ヲ準用スル諸規定ニ依  
リ本年十二月施行スベキ定期賞與ハ十二月一日現在員  
ニ就キ左ノ標準ニ依リ之ヲ支給スベシ  
海軍燃料廠探炭部、平壤鑛業部ノ鑛夫ニ對シテハ十二  
月一日現在員ニ就キ同様ノ標準ニ依リ賞與ヲ支給スル  
コトヲ得

昭和六年十一月二十五日

海 軍 大 臣

在職一年以上勤績者	賃錢二十五日分以内
同 十箇月 同	同 二十日分以内
同 八箇月 同	同 十五日分以内
同 六箇月 同	同 十日分以内
同 三箇月 同	同 五日分以内
同 一箇月 同	同 三日分以内

○ 雜 款

○第二十四潜水隊(呂六四、呂六三、呂六八)、呂號第  
二十五潜水艦行動豫定  
地 名 着 發  
吳 十二月二日  
佐世保 十二月三日

○郵便物發送先  
第二十四潜水隊(呂六四、呂六三、呂六八)、呂號第  
二十五潜水艦宛  
十二月一日迄ニ到達見込ノモノハ 吳  
其ノ後ハ 佐世保

海軍公報(部内限) 第千五百五十七號 昭和六年十一月二十五日

五一五

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第千五百五十八號

昭和六年十一月二十八日(土)  
海軍大臣官房

○通牒

軍務一第二四〇號

昭和六年十一月二十七日

海軍省軍務局長

各廳長殿

勅諭下賜五十年記念行事ニ關スル件申進

昭和七年一月四日ハ勅諭下賜五十年ニ當ルヲ以テ之ガ記念、祝賀ヲ兼テ御趣旨ノ徹底普及、軍人精神作興其ノ他ニ資スル爲概ネ左記要領ニ依リ各種行事ヲ實施セラルル豫定ニ候條御了知相成度

記

一 勅諭下賜五十年記念日(四月一日)

(一) 奉書上奏

陸海軍軍人ハ軍人ニ賜ハリタル勅諭ノ御趣旨ヲ奉體シ終始一貫世相ニ拘ラズ益忠誠ヲ抽デ且永ク將來ニ亘リ搖ギナキ決意ナル次第ヲ陸海軍大臣ヨリ

奉書上聞ニ達ス

(二) 艦船部隊ニ於ケル行事

滿艦飾(艦船、午前八時ヨリ日沒迄)

勅諭下賜五十年記念式

遙拜式

勅諭(明治十五年、大正元年及昭和元年軍人ニ賜ハリタル勅諭)奉讀

上奏文朗讀(爲シ得レバ大臣上奏ノ時刻トス)

精神講話

所屬長官又ハ艦船部隊長ノ定ムル所ニ依リ武技體技競技、觀兵式、登山、運動會等ヲ行ヒ又ハ本記念日ヲ永ク將來ニ記念スル爲適宜ノ行事ヲ行フモノトス

當日ハ休業トシ對支待機兵力ヲ除クノ外冬季休暇交代期ヲ一月四日附近トスル等適宜ノ方法ニ依リ成ルベク全員各種行事ニ參加セシム

海軍公報(部内限) 第千五百五十八號 昭和六年十一月二十八日

五一七

2031

ルニ努ムルモノトス

(三)官術學校ニ於ケル行事

前記(二)ノ記載行事及四大節行事ニ準ズ  
學校等ニ於テ情況已ムヲ得ザルモノハ休暇終了  
後ニ於ケル始業式等ノ際記念式ヲ行フ

二 勅諭下賜五十年記念祝賀日(四月下旬)

(一)東京ニ於ケル記念行事

宮城前廣場ニ於テ

大元帥陛下ノ臨御ヲ仰ギ記念祝典ヲ舉グ東京附

近所在各部ノ中一部之ニ參加ス

陸海軍協同ニテ軍事思想普及ニ資スル各種行事

ヲ行フ

(二)各部ニ於テハ記念式ヲ舉グ爲シ得レバ適宜對部外

軍事思想普及上有効ナルベキ行事ヲ行フ

○雜款

○事務室移轉

第十八潜水隊(伊五三、伊五四、伊五五)ノ事務ハ來  
十二月一日ヨリ軍艦長鯨潜水隊事務室ニ於テ執務ス

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第千五百五十九號

海軍大臣官房

昭和六年十一月三十日(月)

○令 達

官房第三六七五號

昭和六年度歳出科目中左ノ通追加ス

昭和六年十一月二十六日

海軍大臣

歳出經常部

款	項	目	節	解	疏	會計科目 電信略號
(軍事費)	(俸給)	將官俸	× 増	俸	昭和二 二號ニ 依リ給 スル分	イメ
		佐尉官俸	× 増	俸	昭和二 二號ニ 依リ給 スル分	イミ
○通 牒						
	(特務士官 給俸)	下士官 俸給	× 増	俸	昭和二 二號ニ 依リ給 スル分	イシ
	(兵俸給)	雜給及 雜費	× 増	俸	昭和二 二號ニ 依リ給 スル分	イヒ
		給	× 増	給	昭和二 二號ニ 依リ給 スル分	ルユ
<p>經豫第五五六號 昭和六年經豫第四九二號昭和六年度艦艇派遣費、中華 民國方面臨時艦艇派遣諸費補足整理區分中左ノ追加フ</p>						

海軍公報 (部内限) 第千五百五十九號 昭和六年十一月三十日

五一九

2033

昭和六年十一月二十六日

海軍省 經理局長

二、ト、艦營費中

「昭和二年勅令第三十二號ニ依ル増給」ヲ加フ

○ 雜 款

○事務室移轉

第十九潜水隊（伊五六、伊五七、伊五八）事務ハ來十二月一日ヨリ吳防備隊内ニ於テ執務ス

○正誤

一昨二十八日通牒欄軍務一第二四〇號中「勅諭下賜五十年記念日（四月一日）」ハ「勅諭下賜五十年記念日（一月四日）」ノ誤